

[例題1] 令和3年版の森林・林業白書の森林組合に関する次の記述のA～Cに当てはまるものを、いずれも正しく挙げているのはどれか。

森林組合の数は、平成12(2000)年度末では1,174であったが、平成30(2018)年度にはその約  割となっている。一方、組合員が所有する森林は民有林面積の約  割を占めている。森林組合は植林、下刈り、間伐等の林業作業の受託を行い、森林整備の中心的な担い手となっており、その面積は全受託面積の  割以上となっている。

	A	B	C
1.	5	7	5
2.	5	5	7
3.	7	5	7
4.	7	7	5
5.	7	5	5

正答番号：1

〔例題2〕 測量における誤差に関する次の記述 A～D に該当するものをいずれも正しく挙げているのはどれか。

- A. 測量者の視覚の不完全，あるいは器械の操作の不慣れなどから生じる誤差である。
- B. おこる原因がわかっているもので，観測ごとに一定量だけ累積してくる誤差である。したがって，その原因がわかれば測定値を補正したり，取り除くことのできる誤差である。
- C. 器械の構造または調整不完全によって生じる誤差である。
- D. 測量者の不注意，不慣れ，精神的錯覚などから生じる誤差であり，読み誤り，記入の誤り，計算の誤りなどである。

	A	B	C	D
1.	個人誤差	器械誤差	過失	定誤差
2.	個人誤差	定誤差	器械誤差	過失
3.	器械誤差	過失	個人誤差	定誤差
4.	器械誤差	定誤差	個人誤差	過失
5.	定誤差	個人誤差	器械誤差	過失

正答番号：2